



Q：アニサキス症とは何ですか。

A：アニサキスはクジラやイルカなどに寄生する寄生虫（線虫の一種）です。その幼虫は長さ2〜3cm、幅は0.5〜1mmくらいの白色の少し太い糸状をしています。主にイカ類、サケ、サバ、アジ、イワシ、イサキ、サンマ、タラ、ハタ、サワラ、ブリ、カツオなどの魚介類が中間宿主であり、幼虫が寄生している魚介類を生で食べることで体内に入り込み、幼虫が胃壁や腸壁に食い付いて食中毒（アニサキス症）を引き起こします。多くは胃アニサキス症であり、食後数時間から十数時間

後に胃の激しい痛み、悪心、嘔吐を生じます。料理で使う程度の食酢での処理、塩漬け、醤油やわさびを付けても幼虫は死滅しません。感染防止には十分な加熱または冷凍が必要で、内視鏡を用いて消化管粘膜上の虫体を確認し、鉗子で虫体を摘んで取り除くことすみやかに症状は消失します。



す。もっとも、アニサキスは人体中では成虫にはなれず、1週間程度で自然に死滅して脱落しますので、対症療法だけでなくもいすれ治ります。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎0555・2888・1801